



## ワンチャンは一度だけ

秋も深まってきたある日「ベルゲン2期生のYですが、近いうちに伺ってもいいですか。」という電話がかかってきました。数日後、新婚旅行のお土産を持って結婚の報告に来てくれました。移転後の塾舎も見てみたかったそうです。彼は開塾の翌年の小4の時から高校卒業まで9年間通ってくれました。小さい時から地元の役に立つ仕事をしたいと言っていましたが、その言葉通りに今は千葉市役所に勤めています。いろいろな部署を経験して大変そうですがやりがいもあるようです。ここを忘れずにいてくれたことがうれしいです。

今大学4年生の何人かの講師もまもなく社会人として巣立っていきます。NHKの記者職に就く男子も、航空管制官になることが決まった女子も、小5の時から通っていました。目の前の成績だけでなく、長い目で見た時に役立つ力をつけてあげたいというこの塾の理念、その力が社会に出た時にこそ発揮されることを願います。

さて最近気になるのが、主に中学生たちが乱発する「ワンチャンあるかも」というフレーズ。ニュアンスとしては「期待はしてないけど、ひょっとしてうまくいくかも。(いや、うまく行ってほしい…)」という感じでしょうか。麻雀や格闘ゲームで使っていたところから広まったという説もありますが、もう接続詞のように使われていることもあります。そしてそこには何となく「棚からぼたもち」的な安易さが透けて見えます。本来の使い方は「たった1度だけのチャンスかもしれないから、それに賭けてみよう、そのための努力をしよう。」ではないでしょうか。「前回のテストでは全然良い点がとれなかったけど、今度は苦手な分野が出ないからワンチャンあるかも。」と思ったのなら、そこで気休めの安心感を持ってはいけません。計画を立てましょう、それを実行しましょう。チャンスを生かす行動に出ましょう。長い人生の中で本当のチャンスを見極めて、それを生かすのは大変です。今はそんな場面に備える練習の期間なのだと思います。ようやく本気を出してきた中3には後期入試までならまだ120日あります。ひょっとしてツーチャンあるかも！